

Mirai研レポート

発行：未来の学校事業運営委員会「Mirai研」

『国際的な教育プログラムを研究する高校』 県立高校「未来の学校」実践校に指定されました（R2～6年）

卓越した探究的な学びを推進する高校 : 野沢北高校
 信州に根ざしたグローバルな学びを推進する高校 : 須坂高校
 高度な産業教育を推進する高校 : 木曾青峰高校
 少人数学級を研究する高校 : 坂城高校
 自治の追求により骨太のリーダーを育成する高校 : 松本深志高校



国際的な教育プログラムを研究する高校 : 飯田風越高校

topic 何を研究し、どう活用されるのか？

長野県の高校の中で、**研究実践校6校**が指定され、**5年間**かけて**それぞれのテーマ**のもと研究が進められています。その研究成果を他校が取り入れることで、長野県教育をより良くしていくことがねらいです。

飯田風越高校は「国際的な教育プログラムを研究する高校」に指定されており、次の2つを柱として研究を行っています。

国際的な教育プログラム（IB）にヒントを得て、独自の教育プログラムを作成する

効果的な留学支援体制を確立する

その研究は飯田風越高校の全職員・全生徒が協力して行っていますが、その中心になるのが、未来の学校事業運営委員会、通称「**Mirai研**」です。

今年度（**R5**）は研究の4年目にあたり、これまで準備してきたものを活用して実践をたくさん行い、その**効果を検証**していくことを計画しています。例えば、授業はもちろん、留学講座やクラスマッチや文化祭などの生徒会行事等、**幅広い実践を行っていきたい**のです。

ただ、人間は自分ごととして捉えられないと、なかなか主体的に、前向きに活動できないものです。この研究に関しても同様でしょう。ただ、この研究は県からの要請で仕方なく行っているわけではありません。次のような意義があります。

- ✓ **現在求められている教育の在り方に合致している**
- ✓ **自らの指導をアップデートする契機になる**
- ✓ **これまでの教育の在り方にとらわれず、生徒の可能性を引き出すことができる**

無理をしているわけではなく、本気でそう思います。教師として生徒の前に立つ以上、その指導は常にアップデートされ、時代や社会的背景に則したものでなくてはなりません。何年も同じ指導、自分の高校時代に受けてきたものを真似た指導（その指導はさらに前の時代から引き継がれてきた可能性もある）が良いはずがありません。生徒の未来に触れていることを深く自覚し、自らの生徒への向き合い方を再度考えてみませんか？

国際科研究室に委員会本部を置き、木曜日の7時間目に会議をしています。

研究4年目の今年度は、実践の数を増やし、分析・検証を重ねていく1年になります。お忙しい中かとは思いますが、**飯田風越高校全職員で研究を進めていく**ことが必要不可欠です。研究へのご協力お願いいたします。

生徒・保護者版Mirai研レポート

目的 「みんなの未来レポート」を発行します

未来の学校事業について生徒・保護者への周知・広報

配布方法

クラス掲示、配信メール、+classroomのストリーム（担任から補足説明）

保護者……配信メール

一般……HP掲示

